

令和7年度 東京都西多摩保健所難病対策地域協議会の報告

- 開催日時 令和7年12月8日(木曜日)
午後1時30分から3時30分
- 場所 西多摩保健所 講堂
- 委員 29名
西多摩医師会、公立病院4医療機関、
訪問看護ステーション、患者・家族会、
市町村(防災主管課、障害主管課)、学識経験者、
東京都医学総合研究所

- 目的 地域における難病の患者への支援体制に関する
課題に係る情報の共有及び地域の実情に応じた
体制の整備について協議することにより、支援体
制の整備を図ることを目的とする。

- 内容
 - ・保健所活動報告 令和7年度西多摩保健所の取組
 - ・議題
風水害に備えた人工呼吸器装着者患者の避難入院の
報告を受けて平常時の備えを考える



令和7年度西多摩保健所の取組み～関係者向研修会～

◆災害時個別支援計画策定支援研修会

- 日時 令和7年7月10日(木曜日)
- 目的
 - ①災害時個別支援計画策定の必要性の理解
 - ②在宅人工呼吸器装着患者の療養生活をイメージできること
- 内容 講義と演習
人工呼吸器装着患者の避難訓練動画の視聴
医療機器及び発電機の経験
- 講師 東京都総合医学研究所 松田氏
- (株)フィリップス・ジャパン
- 参加者 29人(市町村、訪問看護ステーション等)

◆意思決定支援研修会

- 日時 令和7年9月10日(水曜日)
- テーマ ALSの意思決定支援を通して在宅療養・地域連携の在り方を考える
～難病になっても住み慣れた地域で生活するために～
- 講師 国立精神・神経医療研修センター看護師 花井氏
- 内容 ①講義:難病患者の意思決定支援
②GW:意思決定支援に向けた関係機関の役割分担・連携について
- 参加者 32人
(ケアマネ、訪問看護、医療機関、市町村)



令和7年度西多摩保健所の取組み～難病患者の災害対策～

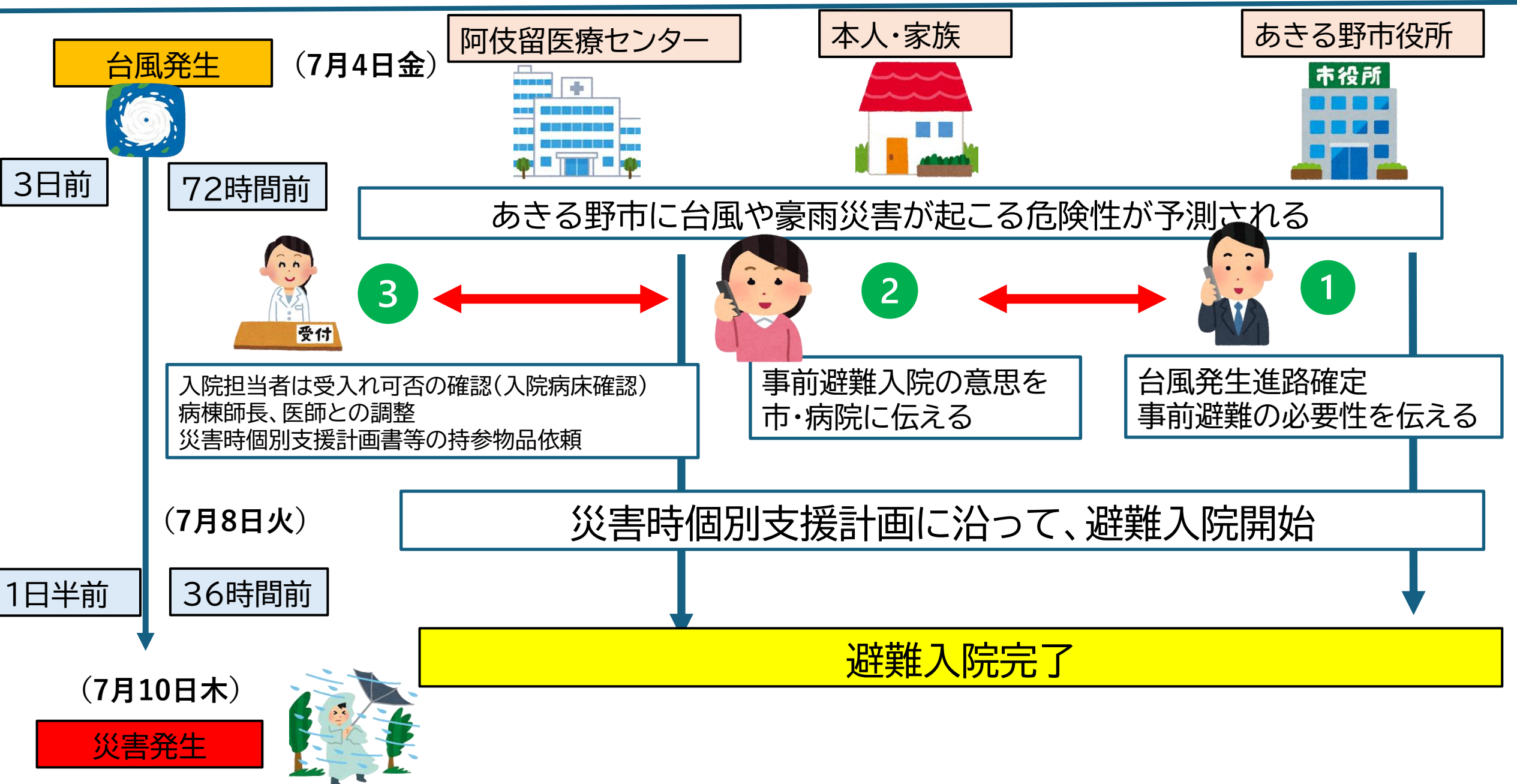
本協議会では、令和元年東日本台風の経験以降、難病患者の災害対策をテーマに実施してきた。

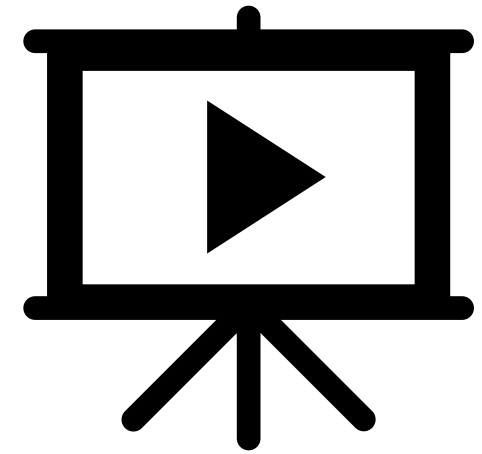
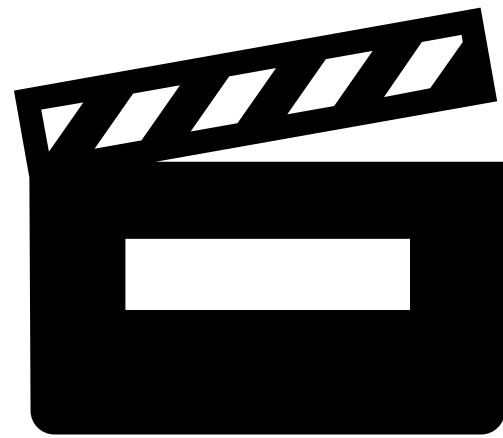
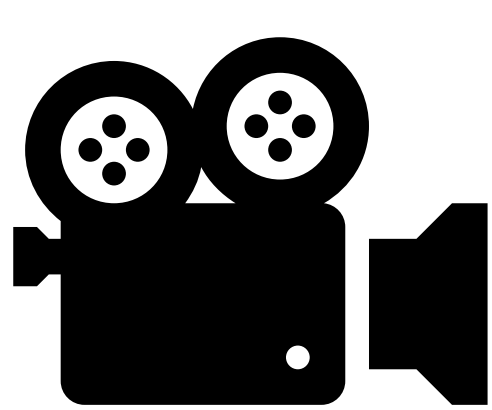
令和6年度は24時間人工呼吸器使用者のシミュレーション訓練を実施し、その報告と意見交換を行った。風水害対策として人工呼吸器装着者の避難入院が話題となった。

この避難入院について、医療機関からは「地域包括ケア病棟を活用し、災害時、入院の受入れ相談は可能」、市町村からは「風水害などは、事前に対象者へ避難を呼びかけができる」等のご意見が出されてた。

これらを受け、令和7年度は人工呼吸器装着者の医療機関への避難入院訓練を実施した。

人工呼吸器装着者の避難入院の概要





避難入院訓練動画の視聴

風水害に備えた人工呼吸器装着者患者の避難入院の報告を受けて平常時の備えを考える

令和7年度 難病対策地域協議会でのご意見等

□ 阿伎留医療センター

- ・地域医療機関の役割として、避難入院を病院全体で検討・実施した。入院形態や費用の課題が明確になった。

□ 医療機関

- ・病院だけでは一步を踏み出しにくいいため、保健所や行政からの働きかけがあると良い。
- ・平時から当院への入院希望者を把握し、定期的に情報共有するなど工夫が考えられる。

□ 市町村

- ・人工呼吸器使用者の電源を市で確保できれば、利用者の安心につながる。
- ・災害時の要配慮者支援について、早急に取り組む必要性を再認識した。
- ・役割分担や関係団体との連携を図り、組織横断的に体制構築を進めていく。

人工呼吸器装着者の避難入院体制の構築に向けて

- 1) 災害時個別支援計画(避難計画)を作成することが必要である。
- 2) 計画の中に、風水害時の避難入院先の確保を含めることができる。
- 3) 受入先病院と患者との間に面識(平時の受診やお試し入院等)があることが、発災時の円滑な避難につながる
- 4) 受入先の確保には、行政からの働きかけが有効である。
- 5) 避難入院の体制づくりには地域性があるため、西多摩圏域の医療資源に合わせた適切な方法を検討する必要がある。

令和8年度 難病対策地域協議会

- 1 引き続き、人工呼吸器装着者の災害対策を推進していく。
- 2 令和4年度から西多摩保健所が取り組んでいる在宅難病患者の意思決定支援について、地域連携を強化し、本協議会において、「情報共有」「課題の整理」「支援の検討」等の提案を進めていく。